

霊水と共に

「御会式(おえしき)」とは

会式(えしき)とは、本来、集会して式を行うという意味ですが、我々日蓮門下では、日蓮聖人のご命日を中心に門下の寺院で行われる日蓮聖人の追悼法要のことを御会式と表します。日蓮聖人は、弘安五年(二二八二年)十三日の辰の刻(午前八時ごろ)、現在の東京都大田区の池上本門寺でお亡くなりになりました。六十一歳のご生涯でした。

現在の新暦では十一月二十一日になりますが、日蓮聖人ご入滅の際に、「池上の小山に桜が咲いた」の故事から、御会式では、紙製の桜の花や、現在の品種の冬咲きの桜をお供えます。日蓮聖人の一周忌には、弟子、檀信徒が、前夜(お速夜)から集まり、夜通し太鼓を打ち鳴らして大聖人の徳を慕ったということから、現在でも速夜から法要を営む寺院もあります。當寺も、速夜法要からお勤めが始まります。

発行 法華寺
No.3
2017.10
河南町加納 247
☎0721933023



日蓮聖人は、お亡くなりになる一年十カ月前、「立教開宗した時より、二十八年間、ひたすら励んだことは、他の何事でもなく、ただひたすら人々に『南無妙法蓮華經』を唱えさせることである、その『南無妙法蓮華經』を人々の口に入れようとする気持ちは、母親が赤ん坊の口に乳を与えようとする慈悲の心と同じなのだ」と書き残されました。我々は、赤ん坊が無心に母親のお乳を飲むように、無心に『お題目』を唱えるべきなのでしょう。

日蓮聖人 みょうはん ご妙判 かんぎようはちまんしよう 「諫曉八幡抄」より
「二十八年が間、又他事なし。只、妙法蓮華經の七字五字を日本国一切衆生の口に入れんと励むばかりなり。これ即ち、母の赤子の口に乳を入れんと励む慈悲なり」



永代納骨堂について

當寺管理の「やすらぎ霊園」内に「永代納骨堂」が完成しました。檀信徒の皆様には、以前から、できるだけ金銭のご負担の無いように本堂、及び境内納骨塔でのご納骨を、ご用意しておりますが、檀信徒以外の方のご納骨の受け皿として(ご希望される檀信徒様も含めて)新たな供養の形を始めます。堂内は開放され、他宗のご寺院、菩提寺のご僧侶のご法事の場としてもご自由にお使いいただけます。詳細等、遠慮なくお尋ねください。

参道拡張について

六月から工事にかかり、七月に東側から入る道路の拡張が完成しました。今までは「慣れないと難しい細い道です」としか言えませんでした。道幅も二五〇cmになり、上がりやすくなりました。「第一交通」のタクシーさんなら、お寺の公園まで上がっていただけるようになりました。



ホームページのブログ(二〇一七年二月二十六日)より

人々は、寺社参りなどで、「どうか災いやトラブルが起りませんように」と祈ります。しかし、長い人生において困難が起きないのはあり得ないことです。

私は「困難が起こっても何とか切り抜けられますように」と願い、「起きてしまった困難から、しっかりと学び、今後の実力に変えることができますように」と祈ることが大切だと考えています。また、自分自身が苦手なことや嫌な事は「自分の人生修行のヒント」です。

四〇〇年ほど前の中国の書物「菜根譚」さいこんたんには「逆境にある時、周りは良薬に満ちている。また、順風満帆の時、周りに墮落の種が満ちている。しかし、本人はそのことに気づいていない」という内容の言葉が遺されています。

今後の行事予定です

◎十月二十八日(土)

午後七時三〇分～

御会式逮夜法要

◎十月二十九日(日)

午前十一時～

御会式祥當法要

※御会式祥當法要お参りの際は、

例年どおり村内の駐車場をご利用

ください。公園までタクシーのピス

トン送迎いたします。



あとがき

・住職(日驗)

施餓鬼法要、ご来寺ありがとうございました。今年も無事、夏を乗り越えることができました。

・副住職(真人)

高校時代のクラブ、ハンドホール部のOB会がありました。当時しごかれた先輩は、今でもおっかない存在です。

・寺庭婦人(メイ)

大阪伝統野菜の田辺大根、天王寺蕪、里芋、水菜などが旬の季節です。お料理するのが楽しみです。

・寺庭婦人(早智子)

富士山五合目から素晴らしいご来光を拝みました。普段は、雲が多く滅多に見られないそうです。

・徒弟(大志)

お盆のあと、友人とカラオケでリフレッシュしました。得意なものはアニソンです。